

5班bグループ「地域間交流史の諸相」第2回研究会

近世フランス港湾都市における商人社会の編成

地域間結合と国際ネットワーク

2000年1月8日

報告者：深沢 克己

「地域間交流史の諸相」の研究テーマ：地域間交流の場 = 港 / 社会集団 = 商人（羽田正）。商人はいかなる意味で地域を結ぶ集団であるか。他集団（船乗り・巡礼・宣教師）との差異。ヨーロッパ / イスラム世界（地中海 / インド洋 / 内陸アジア） 商人の存在形態の比較。

序 港湾都市の相貌 港とは何か。どういう港を対象とするか。

1. 港湾の機能別類型

避難・補給港：航海の技術的必要（悪天候避難、飲料水・食糧補給、船体修理）

漁港：沿岸漁業 / 沖合・遠洋漁業（ニシン・タラ・鯨） 海運業発展の原動力。

軍港：フランス海軍史研究の進展。主要軍港 = トゥロン、ロシュフォル、プレスト。

商業港：地域内商業 / 国際商業 区別の相対性。輸出入品の集荷 / 再分配 沿岸商業。

17世紀プロヴァンス小港（マルティグ、ラ・シオタ） = レヴァント・マグリブ貿易参加。

プレジャーボート港：20世紀の現象。モーターボート・ヨットの流行 レジャー港湾化。

商業港の優越：社会・経済的重要性 = 近世都市発展の牽引役。フランス地方都市を代表。

2. 港湾都市の基本特徴

海洋性： 物理的要素 = 港湾施設・船舶。 制度 = 海事裁判所・税関・検疫所。

社会的要素 = 船乗り・船大工・港湾労働者。 食文化 = 魚の消費習慣。塩税（ガベル）。

商人性： 制度 = 取引所・商業会議所・商事裁判所。 社会的要素 = 都市エリート形成。

市政権力への参加。 文化 = 商人の価値観・生活様式 都市の「支配文化」的役割。

国際性： 制度 = 外国人特別法・領事制度・居留民組織。 文化 = 異文化接触・文化変容。

社会的要素 = 外国人の来訪・滞在・帰化 / 都市住民との交流・反発・融合。

国際商業港 = 3要素の統合。商人（海運業者） = 3要素の人格的体现。

・ 商人の階層分化と事業構成：商人とは何か。モデル化の試み。

1. 基本的区別 = 卸売商 / 小売商 海上貿易の規定的意味 = 貿易商人の支配的地位。

merchant/tradesman, négociant/marchand, Kaufmann/Krämer, tajir/ba'a, suqa, hawanti
フランス = 17世紀末 ~ 18世紀初頭に区別確立。イギリス・ドイツもほぼ同時期（18世紀）。
典型的négociant = 大貿易港で国際商業・船舶艦装（海運業）を営む貿易商人。

用語法の地域的偏差：ドイツの事例（Étienne François） Handelsmann/Hückerの用語も。

ハンブルク、アウクスブルク、フランクフルト・アム・マイン = 両者の区別明瞭。

ベルリン、ケルン、コブレンツ = 用語・制度（ギルド組織）とも両者を混同。

卸売 / 小売の区別相対化：小売商上層部の貿易投資 貿易商への上昇過程。

ポルドーの薬種商Journu兄弟 = 親族関係を通じて企業拡大、植民地貿易商に成長。

サン-マロ：「零細な」商人層 = 船舶共有組合の持分保有による遠洋貿易参加。

2. 「商人」概念の相対性と流動性：商人社会の周縁部 = 境界領域。

貿易商人 / 関連業者の流動性：造船業者、タール製造業者（パルト海諸港）、製糖業者、
プランテーション所有者（アンティル諸島）、船長 艦装参加 / 貿易商の兼業。

商人 / ブルジョワ（自由業者・官職保有者）の相互浸透：人材・資本の供給源（18世紀）。

サン-マロ = 商業エリート / 自由業ブルジョワ（弁護士・公証人・医者）の一体化。

- ロリアン = (商人出身の) 地方行政官による貿易投資 冒険貸借の大部分を構成。
 商人貴族noblesse commerçante: 貴族身分取得後に商業活動・貿易出資を継続。
 ナント = Grou, Bertrandなど(Jean Meyer) Chateaubriand = 貿易従事は一時的手段。
 商人層 / 周辺社会層の恒常的往来・相互浸透: 商人 = 広汎な星雲状集団の一部を構成。
3. 事業の多面的構成 総合実業家的相貌 jack-of-all-trades(E), brasseur d'affaires(F).
 商業 (商品取引): 総合商社 / 専門商社 特定商品 (穀物など) への専門化は稀。
 自己勘定 / 受託勘定 代理業の重要性・普遍性 = ボルドー、マルセイユ、ロンドン。
 銀行業: 為替手形の売買 (取組・裏書・割引) 両替商・振替銀行 = 貴金属貨幣の取扱い。
 為替裁定取引の重要性 = Roux商会文書 (マルセイユ)、Gabriel da Silva文書 (ボルドー)。
 海運業: 船主・艦装業者 navicularius(L), armateur(F), shipowner(E). 船主 / 荷主。
 ボルドー: 植民地貿易 = フランス人艦装業者 / 北ヨーロッパ貿易 = 外国人代理商。
 海上保険: 保険業者 / 保険契約者 商人間相互の危険分散。再保険市場の成立。
 18世紀後半 = 戦時に大規模な株式保険会社設立 J. Rabaud, D. Audibert (マルセイユ)。
 製造業: 貿易関連産業の経営。砂糖精製 (大西洋岸諸港)、石鹼製造 (マルセイユ)。
 20世紀の港湾 (石油化学) コンビナートの前身、ただしずっと小規模、商業に従属。
 分業の未成立 商人が港湾経済をすべて統括。都市生活全体がそれに依存。
- ・ 社会編成と親族ネットワーク: 集団の地域性 / 国際性、内陸性 / 海洋性、求心性 / 遠心性。
1. 商人社会の形成: 港湾都市の吸引力と商業エリートの系譜。
 地域内・国内移入民 「地元」商人層の供給源。中世末期に最初の中核形成。
 a) 18世紀マルセイユ(Charles Carrière): 貿易商人数 = 世紀初頭250~300 / 世紀末700~750。
 国内移入者 = 817人。地方別分布(%): ラングドック31.9、プロヴァンス29.3、ドフィネ10.3、リヨネ4.5、ギユイエンヌ3.4、ブルターニュ3.4、パリ地方3.2など (地図2)。
 商業後背地・大西洋沿岸・内陸交通の要衝がおもな供給源。王国の周縁部が多い。
 プロテスタント = ラングドック101、ドフィネ37、ギユイエンヌ19、プロヴァンス7。
 b) 18世紀ボルドー(Jean-Pierre Poussou): 史料 = 婚姻 (夫婦財産) 契約書 限界性。
 商人の移入者 (外国人含む) = 739 (négociants = 230、marchands = 509)。
 地方別分布(%): アキテーヌ40.0、ピレネ地方24.1、ポワトゥ・サントンジユ4.9、ラングドック3.0、リムザン2.7、リヨネ・ドフィネ2.7、パリ地方2.0... 諸外国6.6 (地図3)。
 アキテーヌ後背地中心。マルセイユよりも分布範囲が限定 (史料・対象の差異?)。
 国外移入民 外国商人コロニー形成。港湾都市の国際性を体現。
 a) 18世紀マルセイユ: 外国出身の移入者 = 489人。地域別分布(%): ジュネーヴ・スイス35.0、イタリア25.2、ドイツ8.0、イギリス6.3、レヴァント5.9、ネーデルラント4.5、スペイン・ポルトガル4.3、マグリブ2.9など。北・中央ヨーロッパ出身が多数派(56%)、ついでイタリア(25%)。イベリア半島・東地中海沿岸出身者は少数派(16%) (地図2)。
 b) 18世紀ボルドー(Paul Butel): 1777年のcapitation課税名簿中の外国人代理商 = 111人。
 出身地別分布: ドイツ52、イギリス (大多数はアイルランド) 33、オランダ17、デンマーク・スウェーデン5、スイス5。ほかにポルトガル系ユダヤ人 (世紀中葉に64人)。
 北ヨーロッパ出身が圧倒的 = 城外区Chartronsに集住。ユダヤ人 = 旧市内居住。
 外国商人の移入 = 能動貿易 / 受動貿易ネットワークの従属変数。
 能動ネットワーク = 移入は少数 (例: マルセイユ スペイン / オスマン帝国)。
 受動ネットワーク = 移入は多数 (例: ボルドー 北ヨーロッパ)。
 主要外国商人コロニーの時代別交替: 中世後期 = イタリア人、16世紀 = スペイン人、17世紀 = オランダ人、18世紀 = ドイツ・スイス人 中央ヨーロッパの「海洋化」現象。
 ヨーロッパ国際商業における宗教的少数派 = 離散共同体(diaspora)の役割。
 ユグノ、ジャコバイト、ユダヤ人(sefardim)など。イスラム世界と共通する要素。

2. 商人社会の婚姻関係：婚姻原則と集団の凝集性。

職業的内婚(endogamie professionnelle) = 事業規模(資本・人員・取引網)拡大のために有力な商人系間で結婚。性別選択による上昇戦略：息子×同業の娘、娘×貴族と縁組。

事業発展と社会的名誉の両得。「ブルジョワジーの裏切り」は限定的(18世紀)。

例 = ボルドー商人François Bonnaffé(ラングドックLacaune出身のプロテスタント)。

1780年代に娘のPaulineとJennyをそれぞれPaul-Alexandre Nairac, baron de FerrièresとJean-Nicolas de l'Isle-Ferme(両者ともプロテスタント貴族)に嫁がせる。ただし長女は富裕なプロテスタント商人François Barthezと結婚。宗教的内婚の一例にもなる。

宗教的内婚(endogamie confessionnelle) = カトリック、プロテスタント、ユダヤ教徒は各宗教共同体内部で結婚。異宗派・異教徒間の結婚は例外的。ただし同じユダヤ教徒でもsefardim-ashkénazim間の結婚は稀。カルヴァン派・ルター派関係については検討必要。

例 = ボルドーのポルトガル系ユダヤ商人Gradis家。17世紀にボルドーに移住。第2世代のAntoine, Samuel, Davidはいずれも商人、同じsefardimのMendès, Mendès-Moreno家の娘と結婚、末子Davidが家督継承、その4人の娘はGradis一族内の近親婚(伯父・従兄)およびsefardimのPeixotto, Lopès-Depasに嫁入り。近親婚を含む徹底した宗教的内婚。

国民的内婚 / 国際的外婚(endogamie/exogamie [inter]nationale) = 流動性・多様性。

a) 国家的・重商主義的観点 = 法的規制による国民的内婚の強制。フランス王国法は在外フランス商人と現地女性の結婚を禁止(とくにレヴァント貿易) 遵守は限定的。

b) 一般に移民第1世代の男性(とその長男)は同国人女性と結婚 = 移民集団の凝集性維持。娘は現地の男性(同宗・同業)と優先的に結婚 = 現地実業界への浸透・進出。

例 = ボルドーのオランダ商人・アイルランド商人(Peter Voss, Patrick Clarke de Dro.)。

17世紀後半~18世紀初頭におけるボルドー在住オランダ商人の結婚相手：

オランダ人19、ドイツ人3、デンマーク人1、フランドル人1、フランス人11。

c) 第2世代~男女とも国際結婚はより頻繁 現地社会に同化 / 親族ネットワークの国際化。しかし祖国との絆を維持するために同国人(現地または郷里)との結婚をも継続。

例 = ボルドーのアイルランド商人Jean Clarke de Dromantin(ジャコバイトの息子)

1716 = Jean Clarke × Anne Walsh(アイルランド人) 1758 = Tobie Clarke × Jeanne

Marie Malle(母Marguerite Priceはジャコバイト) 1794 = Luc-Tobie Clarke × Anne

Jeanne Clarke(親族内婚) 1832 = Jean-Georges-Luc Clarke × Athénaïs de Gères

(ギュイエンヌ地方の古い貴族家系) 19世紀まで長男は同国人女性と結婚。

職業的・宗教的内婚 国際事業ネットワークの組織化の基礎。商業と信仰の親和力。

国民的内婚 求心性の強い閉鎖的(国際)ネットワーク形成 ユダヤ人、ジャコバイト。

国際的外婚 遠心性の強い開放的国際ネットワーク形成 プロテスタント(ユグノ)。

親族関係の多様化(貴族の姻戚化)と国際化における女性の役割。

・ 商社組織と人材養成：企業分散 / 集合、実務教育 / 海外修業、社会空間 / 文化空間。

1. 企業の細分化と重層性：資本主義の家族的・縁故的・柔軟的性格。

商事会社の組織形態(基礎単位) 基本的区別と支配的傾向。

近代的区別：物的 / 人的会社Real-/Personengesellschaft(D) 信用の基礎 = 財産 / 人格。

歴史的区別：public/private partnership(E) 企業の性格 = 公的 / 私的。資本公開 / 閉鎖。

特権 / 民間商社compagnie/société(F) 国家の特権授与の有無。独占 / 自由。

普遍的形態 = 人的・私的な民間商社(合名 / 合資会社) 例外 = 特権商社(株式会社)。

企業の家族的性格 = 資本主義の細分化現象。会社 = 個人 / 家族事業の連続性の保証。

17/18世紀商社の平均社員数 = ナント3~5、サン-マロ2~3、ロンドン3~4。

企業の重層性 = 個別的・当座的会社の結成(応用単位) 航海別資本結集の必要性に適応。

伝統的概念 = 一般会社 / 個別会社société générale/particulière 合名会社 / 当座組合。

例 = 17世紀サン-マロの当座的会社形態(André Lespagnol) : sociétés "ad hoc".

- a) 損益参加組合：商品の共同購入・販売。口頭契約・私信による非公式組合。
 b) 保険会社：より持続的（2~3年）、公正証書による設立、18世紀に発達。 やや特殊。
 c) 船舶共有組合：多くは非公式の船主 = 艦装主団体、実質的持続性。荷主組合を兼業。
 1680-85年 = 総船舶数143隻、個人所有21、共同所有122。持分所有者consors=1/2~1/64。
 資本調達空間の社会的・地理的拡大と商業資本主義の柔軟性（とくに船舶共有組合）。
 「受動的」ブルジョワジー（保有官僚・金利生活者・自由業者）の企業参加。
 持分の再譲渡 下層階級への下位持分拡張。下層商人の艦装参加 = 海運業の「民主化」。
 商人層の地域間結合 = 外部資本の企業参加。サン-マロ都市外のconsors = グランヴィ
 ル、レンヌ、ナント、ルアン、パリ、マルセイユ、リヨン、カディス 全体の1/8所有。
 内在的要素 = 細分化された家族・親族資本の再結集 / 投資機会の増大・多様化。

2. 職業教育と修業過程：人材の再生産 / 家族企業の永続性 / 親族・縁故ネットワークの維持。
 商人教育の基本 = 読み・書き・算術 / 商業技術（複式簿記・為替） / 世界の見聞・知識。
 伝統的教育モデル = 17世紀サン-マロの例(André Lespagnol)：実用的「実地」教育を基本。
- a) 基礎的初等教育 = 初等学校(petites écoles) / 家庭教師。17世紀末の識字率57,6% ブル
 ターニュ最高、全国でも高水準。短期中等教育（3年）= Préceptorerie, Grande École。
 中等学校collègeの不在 = 市政体・商人層によるイエズス会コレージュの拒否(1611-32)。
 商人的心性 = 非実用的な人文主義古典教育に対する無関心（他の港湾都市にも共通）。
 学校教育 = 13~15歳で終了。実地修業 = 現場教育の開始（10~15年以上継続）。
- b) 航海知識の修得 = 商船への乗り組み。 サン-マロの特殊性 = 艦装・海運業の重要性。
 15歳前後から志願・準上級船員として乗船（親族が船主）。数年後に船長に昇任。
 1701年capitation課税名簿 = 貿易商人160人中50人以上が船長職を経験、15人は継続中。
 関連教育施設 = 水界地理学校École d'Hydrographie（1673年開設）の上級コース。
 数学・水路学・地理学の授業。船長の資格 = 原則として6ヶ月間の受講が必要。
 商業の実践的訓練 = * 上級船員の商品無料積載権port-permisの利用。Pierre Jolifの
 例 = 1712年15歳で父の商船に搭乗、8000リーヴル相当のpacotille積載、ペルー「南海」
 密貿易に参加。* 船長 = 船主・荷主の受託人として全船荷の商取引代行 = 実質的商人。
- c) 帳場の実務修業 = 一般的・普遍的修業形態。事務員・帳簿係の勤務形態を含む。
 自宅内修業 = 家長の商社に息子が勤務、会計技術習得。サン-マロでは少数派。
 父の死後、息子が母 = 寡婦による商社経営を補佐する例が多い："Veuve et fils".
 海外修業 = 実務修得・外国語学習・海外見聞・国際的人脈形成の一挙多得。
 修業先 = スペイン南部諸港（主にカディス）。13~15歳で渡航、家族からの資本供給
 現地商社（親族子会社）の"junior partner" 代表社員。通常10~15年間現地滞在。
 1700年以降の教育モデル転換 = コレージュ古典教育の通例化：レンヌ（イエズス会）、
 パリ(Louis-le-Grand)、ジュイイ（オラトリオ会）などに子弟を修学。
 原因：サン-マロ大商人家系の貴族身分上昇（官職購入） 文化的「洗練」の要請。
 結果：貴族的価値観・イデオロギーの感染 / 職業の選択肢増加 高等法院・会計院の
 官僚 / 軍隊の将校 社会的上昇・転化 「教養ある商人」 = Vincent de Gournayなど。
 海外研修と商用旅行 = 国際ネットワークの活用・強化。ボルドーの場合(Paul Butel)。
- a) ボルドー港乗船客の渡航先分布（貿易商人の子弟以外の乗客を含む）：
- | | オランダ | イギリス | アイルランド | ハンブルク | その他 | 合計 |
|---------|------|------|--------|-------|-----|----|
| 1713-15 | 43 | 18 | 16 | 6 | 4 | 87 |
| 1730-32 | 29 | 4 | 10 | 7 | 1 | 29 |
- 渡航者の年齢(1713-15)：15歳未満 = 42%、19歳未満 = 71% 青少年の修業が主目的。
 実務修業におけるオランダ、アイルランド、ハンブルクの重要性 貿易関係を反映。
 18世紀（とくに1770年代以降）乗船者数激減。 原因 = 陸路による研修出発の増加
 （パリ リール オランダ、パリ カレ イギリス） / ボルドー在住外国商社で修業。

例：1785年Jean Boyer-Fonfrède (19歳、未来のジロンド派議員)の夫婦財産契約書 = 5年間の海外研修を規定。「知識を獲得し主要商業都市の商人たちと関係をつむぐため」。

b) 商業実務修得の範囲を超える「世界見聞」旅行 富裕な大商人家系の子弟の特権。
例 = プロテスタント商人Franoçois Bonnafféの息子Jean, Étienneのヨーロッパ周遊。
10歳でスイス留学、改革派宗教教育を受ける。 ボルドー・カトリック教育の拒否。
1783年から約2年間の周遊旅行出発。フランス(ラ・ロシェル、ナント、プレスト、ル・アーヴル、ディエップ) イギリス(ロンドン、オクスフォード、バーミンガム、リヴァプール、マンチェスター) カレ ネーデルラント(アントウェルペン、アムステルダム、ロッテルダム) ドイツ(ハンブルク、ライプツィヒ、ベルリン、ドレスデン) オーストリア(ウィーン、トリエステ) イタリア スイス フランス帰還。
旅費総額10万リーヴルの「殿様旅行」。帰国後父親の商社経営に参加(partner)。

港湾都市のほか、政治首都・大学都市・新興工業都市を訪問 = 旅行目的の多面性示唆。
海外修業・外国見聞 = 商人教育に不可欠の要素。職業人生の主要一階梯。必要な投資対象。
外国の言語・習慣・実務・市場の知識 + 取引先の面識・友好・拡大 = 商人のメティエ。
経営参加と結婚は海外修業からの帰還後 貿易商人の晩婚傾向の一因。

結論 地域間結合の重層性と国際ネットワークの歴史的 position

1. 地域間結合の重層性

物質的・経済的結合：商品・貨幣・為替の流通 / 船舶・車両の往来 陳腐な表面的現象。
社会的・文化的結合：地域間結合 / 地域内成層化の複合関係 深層構造の比較研究。

「ヨコの地域」 / 「タテの地域」(羽田正)の相互連関。

a) 港湾都市の商人層形成 = 後背地内供給 / 地域間移入 / 国際移動(外国商人コロニー)。
(卸売)商人の階層分化 = 凝集性 / 周辺社会層との往来・相互浸透に連関。

b) 商社組織の二重性 = 永続的一般会社 / 当座の個別会社(組合)。

狭隘な家族企業 外部・海外資本の企業参加 / 周辺社会層の投資参入に連関。

c) 婚姻関係(親族ネットワーク) = 国民的(地域的)内婚 / 国際的外婚。

職業的・宗教的内婚による商人集団の凝集性 / 貴族的外婚による拡散性に連関。

d) 職業教育(人材養成) = 初等教育 / 海外研修。実務修得 / 世界見聞。

職業的再生産 = 実用教育重視 / 貴族の上昇 = 古典教育採用に連関。

人生の階梯に対応：a)就職 = 出発、b)事業 = 発展、c)結婚 = 承認、d)子孫 = 継承。

地域 / 広域、後背地 / 前面地、内陸 / 海洋の緊張を含む相互依存関係。

2. 国際ネットワークの歴史的 position

中世後期 ~ : ヨーロッパ商業の定住化(イタリア・モデルの普遍化)。

遍歴・移動商人の終焉 / 支店・子会社・取引先ネットワークの組織化。

結果 = 商人生活の局地化。事務所内の会計・通信・管理・交渉・契約が業務の中心に。

視野狭窄化・海外事情の無知・広域の人間関係の稀薄化の弊害 / 危険性の増加。

近世の重層的ネットワーク = 商業定住化による弊害の補償・克服。

商人層の地域間供給 / 企業資本の広域化 / 婚姻関係の国際化 / 海外修業の慣習化

商人固有の地域間交流形態。社会階層分化 / 社会的上昇・相互浸透のメカニズムに照応。

イスラム世界との比較の視点：ムスリム商人・アルメニア商人・グジャラート商人・マラバル商人などの事業組織 / 社会編成。商業資本主義の世界的普遍性 / 地域的特殊性？

参考文献 :

- Angiolini, Franco, et Daniel Roche(dir.). *Cultures et formations négociantes dans l'Europe moderne*. Paris: Editions de l'EHESS, 1995.
- Butel, Paul. *Les négociants bordelais, l'Europe et les Iles au XVIIIe siècle*. Paris: Aubier, 1974.
- Carrière, Charles. *Négociants marseillais au XVIIIe siècle. Contribution à l'étude des économies maritimes*. 2 vols. Marseille: Institut historique de Provence, 1973.
- Cavignac, Jean. *Dictionnaire du judaïsme bordelais aux XVIIIe et XIXe siècles. Biographies, généalogies, professions, institutions*. Bordeaux: Archives départementales de la Gironde, 1987.
- Cavignac, Jean. "L'immigration des Juifs portugais à Bordeaux au XVIIIe siècle." in : *Les relations entre le Sud-Ouest et la péninsule ibérique*, édité par Fédération historique du Sud-Ouest, 125-138. Pau: Société des sciences lettres et arts de Pau et du Béarn, 1987.
- Crouzet, François M. *Le négoce international, XIIIe-XXe siècle*. Paris: Economica, 1989.
- Clarke de Dromantin, Patrick. *Les oies sauvages. Mémoires d'une famille irlandaise réfugiée en France (Nantes, Martinique, Bordeaux : 1691-1914)*. Bordeaux: Presses Universitaires de Bordeaux, 1995.
- Fukasawa, Katsumi. "Marseille, porte du Levant. Un essai de comparaison", in : *Actes du 50^e congrès de la Fédération historique du Sud-Ouest*, tome II, Bordeaux, porte océane, carrefour européen, Bordeaux, Fédération historique du Sud-Ouest, mars 1999, p. 581-593.
- Le Bouëdec, Gérard. *Activité maritimes et sociétés littorales de l'Europe atlantique, 1690-1790*. Paris: Armand Colin, 1997.
- Lespagnol, André . *Messieurs de Saint-Malo. Une élite négociante au temps de Louis XIV*. Saint-Malo: Editions l'Ancre de Marine, 1990.
- Meyer, Jean. *L'armement nantais dans la deuxième moitié du XVIIIe siècle*. Paris: SEVPEN, 1969.
- Poussou, Jean-Pierre. *Bordeaux et le Sud-Ouest au XVIIIe siècle. Croissance économique et attraction urbaine*. Paris: Editions de l'EHESS, 1983.
- Poussou, Jean-Pierre. "Recherches sur l'immigration ango-irlandaise à Bordeaux au XVIIIe siècle." in : *Bordeaux et les Iles britanniques du XIIIe au XXe siècle. Actes du colloque franco-irlandaise à York en septembre 1973*, 61-77. Bordeaux: Fédération historique du Sud-Ouest, 1975.
- Richard, Guy. *La noblesse d'affaires au XVIIIe siècle*. 2 éd. Paris: Armand Colin, 1997.
- Voss, Peter. "Une communauté sur le déclin? Les marchands hollandais à Bordeaux, 1650-1715." *Bulletin du Centre d'histoire des espaces atlantiques* 7 (1995): 33-57.
- 深沢克己「ヨーロッパ商業空間とディアスポラ」(岩波講座『世界歴史』第15巻、岩波書店、1999年3月、181-207ページ)
- 深沢克己「レヴァントのフランス商人 交易の形態と条件をめぐって」(歴史学研究会編『地中海世界史』第3巻、青木書店、1999年5月、113-142ページ)
- 深沢克己「フランス港湾都市の商業ネットワーク」(辛島昇・高山博編『地域の世界史』第3巻、山川出版社、2000年1月刊行予定)
- ポール・ビュテル著『近代世界商業とフランス経済 カリブ海からバルト海まで』(深沢克己・藤井真理訳、同文館、1997年12月)